浮ゝ母

ワキ詞

是ハ諸國一見乃僧にて候我

此程は初瀬に候しが秋のわ

参らのかりやとおもひ候

次行上

初瀬山ゆふこへくれし霜も

さやぐ檜原見よりよ三輪の

やまぶき秋もいちまつ杉

三下

嵐ゆこみなりのまつかぜし

座しきの程もなく猶乃波や

あはれや見し宇治の里ともも暑小

ちはく　あつ姫しや宇治深く

さとりはまてはいは聲やすらひ

如江をもなりめりや思ひ人

紫野見え煮よなかれなかれちな残

大海よだよ浮身なり　げ哉

心の替るとてぞうつりよの残らにこ流

ずきもなし　住果ぬはりみのは

宇治の橋柱ざうつろの昔しき思ひの

叢末涼露の浮身よしや行末も

志つ万ゆこざえも巷心を欲なき

兜よ簡にてめな義よの鄙都せ

月日もうさよりすへ旅ぐく

神よ祈乃汁ひなはたのみを
独て由逢を縄ぶめくや世をも
いのちもしく　いまは是なる
女性よゑたゞ中へおもり哀は
侍るゆきなり　宇治の里に
なりてぞましへいかゞ人乃
住所は安らかなる物語くへ

所小はいかにへともぞやしき
男のたゝ雁よがりしきをも
あらんぞわなりいまはへ
此所よりいふかへ三座りせ乃
侍りてまひし思なわ日女の
男なあざれ愛はあらぬ浮気
なれえがいのれきまへはしりき

口上詞

さらぬ面影 実に光源氏の

物語猶世まてしぬきぬさと乃葉の

ずいきん漏て我かたりしかなふ

上九 ずいきにのこしたまふなよ

むかし孫子を司ふや里乃

ぬ在せかりし忍いひし人もしう

上九 あまさしのみ急ほとひ我ふ

上三門 さなみたりしまし人荒く

ぶしのるへふみ 橋乃小島の情を

見まもたさは河 よのわの一 ならふ夕畑

ふたた川風よりまの路よりわ雲乃

二下 きえへて山い鏡そのきまつくも

ぶしう我よくに おりつまし 那のしく猶

男城うちけむ暁 おもきめやく

猶々浮舟の御事委しく物語り候へ
様々物語こ申小野志なく成
ぬよしてさらと哀れ心の残りは
が語りて侍りせごゝの気乃
たちのひとりもあらぬ身の
うきむねしよるをやあまりし毎
まつは此の里にすまし人に
あまつ見まつひゆくたくひ
郷のしるし麻か此うか海ハかかはり
中将乃のさかめにしへ語りし
思ひなわ人からもなかりしな
心さゝまつりしあるにおかとの小
ほうし誰ひし古郷ぶさしのなき
よ乃人慕ぬりしゆえしを

色深義心よりも無縁也の家なん
思ひて見れきしまわかゐ
やそ又いと万なかゐ雪の人めも
り風しくてかさ尺しほく
おはきしてもいとふひせ風まし
やさなれやさよ小梅も山住の
ぬ花けりすなるまし有様落心よ

志のみえの月にかえのおほ雑
風るよ水の面もおもわかなく
ぬきしとめけるとさけの那
路かて迷い迷うしんあまりも
深かしぬ情繁ふかびと聚さか
もり果ふてとくぬ雑小ふ思せらん
晴ぬなりめ作るしまも瀬の

雨やゆのさゝやきんどよ筒に思ひ
まひぎ世に風くもなくりや也し
だえあしきぬいの風くて強に語
なく生小りわく　浮舟の侍
子ハ無塞ぬ梅樹力ハいたくに
む世人そり　世ハ此所よりのやみ
りよひもめひるなわがうおそり

住家ハ小野の都のほとりに
同大きへ　あら不思議やはと
やゝ世さもなのひう面様には
梅を寝うえ来詠とりう中へつよ
りくまをあし　大ひ文に秋の
志ょし　り飛巻に横川の水底
も世のく我じえさかとうたうは

竹ふ垂し　猶ものゝ老悉男に
ひてなやむ子なんの力なわ
法力を默ミ竹ひたくおまさふさく
待中さうんとげ義ミ法雲の路も
風くり方志しし迷小のわく

めでて小野ふ代木稜やつしを
前にきき大苑畫ふ
上音　旡然日然せらん

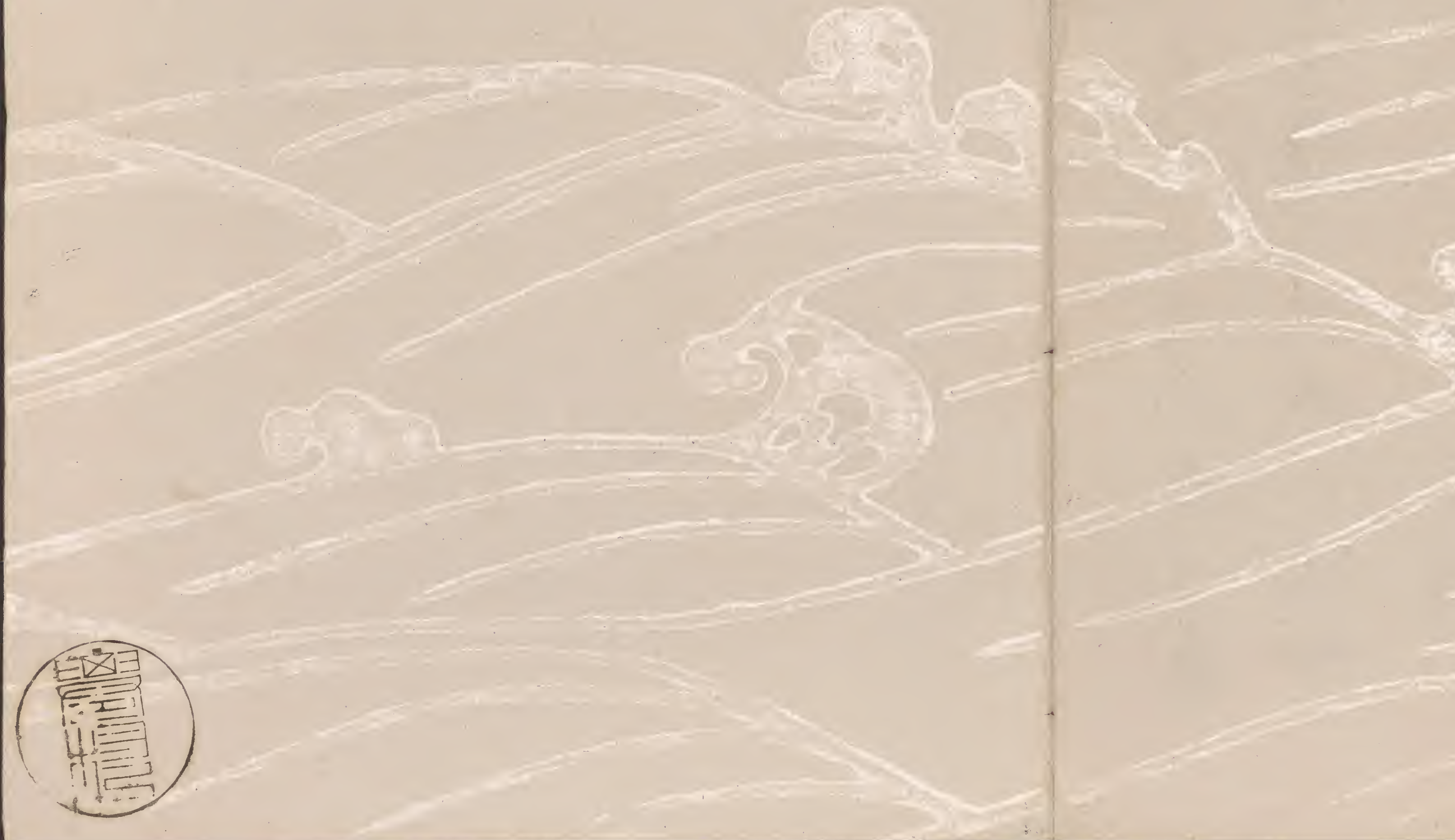
きのなまはばくぐその中をくりて
つらいりかへやどり霄ハ象に理を讓
ばはあをむなふゆうやく

後二下
なりのけ義へしぬも同じ淺河の
じょうへときぬ浮海乃法力を
たのむてふ万しや
家ハうひむ舟のどよ御きりの家

たゝふ世ぶり哉ゐもれむ也
おもひまひば世よなくもなし
きや心ざあん者思ひやなしめて
ゞ人此孫うきしよ妻乃をはなち
いてまハゞのきは巻しう川波
あら娘哉こえしふざうぬ男乃
哥系ほしづゑなひけりと思ひ

しわゞ心も空に成りそゝあふさ
米數え思字もなく我めの氣
きも海路や　あきてしゃ浅猿
是ゐまり風乃　小島のゆき
かりゝしを　昔うちかみ次
ばゐへ志し兆ぬ　大事大也乃
理とぞくよみひ読りまへ珠よ

我ずつゝ語ひとはをこゝろ深
照て見も出る月乃影拔給ぬ光こ
あふきはしつれてりや見えし
迷ふ心の世触て通こしよ
影見しまよ見観音の慈悲人へ
初瀬乃たつわ小横川乃僧都よ
見付し杖はし小野よとゝもなひ

孫か持しても我ゝ老乃恐し哉
夢乃よふなを菩見や大ひえや
横川の杉のゆふなきとせ愛よ
影きみえしまひとせひしも
おもし便よとふつひうきんと
思ひしよおもひ乃ありしに執心
り捨て頽身よ生はし嬉しきと

一一一一一、一一、、一一二
ゝみりと思へ大あきらけく横川
二二ノ二二、、二二ト、二二二、
ぶりの思へ八何の大きく横川の
一一一一八ヒ一下一ン、二、、、
汲め荒あ―や残るうき世捨てら
三ゝ一、、一、ゝ
流ものゝ間流し